

第 9 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和 7 年 12 月 16 日（火）

18 時～19 時 30 分

会場：篠ノ井交流センター 多目的ホール

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 自己紹介

4 会議事項

（１）「第 8 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」まとめ [資料 1]

（２）校地検討会議報告

（３）再編実施基本計画 意見交換

・設置学科について

[資料 2] [資料 3] [資料 4]

5 その他

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第9回長野千曲総合技術新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	座長◎ 新規○	氏名	所属等	役職等
1	自治体		西澤 雅樹	長野市	副市長
2			丸山 陽一	長野市	教育長
3			小川 修一	千曲市	市長
4			小松 信美	千曲市	教育長
5			塚田 常昭	坂城町	教育長
6	産業界		市川 伸一	J Aグリーン長野総合企画部企画広報課	課長
7			福田 享士	株式会社システックス	常務取締役
8			矢島 隆生	フレックスジャパン株式会社	代表取締役社長
9			滝沢 秀治	滝沢食品株式会社	代表取締役社長
10	学識経験者		森下 孟	信州大学学術研究院教育系	准教授
11		◎	藤本 光世	元県立高等学校長	座長
12	地域		坪井 俊文	長野地域振興局	局長
13			海野 忠一	篠ノ井地区住民自治協議会	会長
14			香山 篤美	長野商工会議所松代支部	代表
15			赤地 憲一	千曲市	
16	同窓会		越 正至	更級農業高校同窓会	会長
17			細川 隆男	松代高校同窓会	会長
18			赤塩 曜子	屋代南高校同窓会	会長
19	P T A		山田 哲章	更級農業高校 P T A	会長
20			池田 悌智	松代高校 P T A	会長
21			青木 健司	屋代南高校 P T A	会長
22			峯村 篤	長野市 P T A 連合会	副会長
23			宮原 純平	更埴 P T A 連合会	代表
24	小中学校等 関係者		宮尾 昭広	長野上水内校長会 広徳中学校	校長
25			宮坂 博喜	更埴校長会 屋代小学校	校長
26			倉島さつき	稲荷山養護学校	校長
27	再編対象校		櫻井 大河	更級農業高校	農業クラブ会長
28			武藤 穰	更級農業高校	校長
29			徳武 晃	更級農業高校	教諭
30			岡澤 愛実	松代高校	生徒会長
31			阿部 栄智	松代高校	校長
32			中澤 涼子	松代高校	教諭
33			渋沢 葉奈	屋代南高校	ライフデザイン科代表
34			竹内 宏枝	屋代南高校	校長
35			星野 裕之	屋代南高校	教諭

【事務局】

学校名	氏名		
更 級 農 業 高 校	丸山 暢之 (教頭)	徳武 晃	北澤 晃
松 代 高 校	山口 雅子 (教頭)	中澤 涼子	坂本 成久
屋 代 南 高 校	櫻田 智也 (教頭)	星野 裕之	土屋友紀子
県 教 育 委 員 会	高校教育課 高校再編推進室		
	原 多恵子	主幹指導主事	
	原 周一郎	主任指導主事	
	宮嶋 直美	主任指導主事	
	米澤 和真	主事	
	学びの改革支援課 高校教育指導係		
	宮沢 悠太	指導主事	

第8回 長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

資料1

日 時	令和7年8月25日（月）17時30分～19時00分											
場 所	篠ノ井交流センター 多目的ホール											
出 席 （敬称略 ◎座長）	丸山 陽一	小川 修一	小松 信美	塚田 常昭	福田 享士	滝沢 秀治	森下 孟	◎藤本 光世	坪井 俊文	海野 忠一	香山 篤美	赤地 憲一
	越 正至	細川 隆男	赤塩 曜子	山田 哲章	池田 悌智	青木 健司	宮原 純平	（オンライン）	宮尾 昭広	宮坂 博貴	倉島 さつき	櫻井 大河
	武藤 穰	徳武 晃	岡澤 愛実	阿部 栄智	中澤 涼子	渋沢 葉奈	竹内 宏枝	星野 裕之	（以上31名）			
欠 席 （敬称略）	西澤 雅樹	市川 伸一	傍聴者			23名（オンライン参加1名） 報道関係5社						
	矢島 隆生	峯村 篤										（以上4名）
事務局	更 級 農 業 高 校		3名	丸山教頭		徳武教諭		北澤教諭				
	松 代 高 校		2名	中澤教諭		坂本教諭						
	屋 代 南 高 校		3名	櫻田教頭		星野教諭		土屋教諭				
	高校再編推進室		4名	原（多）主幹指導主事				米澤主事				
					宮嶋主任指導主事				原（周）主任指導主事			
	学びの改革支援課		1名	肥田指導主事								
当日資料	第8回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会 資料											

会議事項

- (1) 第7回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 学びのイメージ策定スケジュール
- (3) DXに係る学びについて 意見交換
 - ア 茨城県立IT未来高校視察報告
 - イ DXに係る学びについて
- (4) 学びのイメージ・育てたい生徒像・目指す学校像 事務局原案
- (5) 校地検討の進め方について

主な内容(意見・質問等)

○会議事項

- (1) 第7回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

【質問】

- ・現在、長野県内でDXハイスクールとして指定されている学校数は15校でよいのか。その中に最近できた技術新校は何校含まれているか。
- DXハイスクールについては県立高校15校と市立長野高校が指定されている。総合技術高校については、15校の中に含まれていない。

- (2) 学びのイメージ策定スケジュール 【事務局より説明 意見・質問なし】

- (3) DXに係る学びについて 意見交換

- ア 茨城県立IT未来高校視察報告 松代高校 阿部 栄智 校長

- ・4年制大学、短期大学、専門学校に進学できる生徒と、ITスペシャリストの人材育成を目的に設立された。デジタル社会を支えるIT技術者の育成を目指している。
- ・定時制単位制高校だが3修制をひいており、3年間で卒業することができる。
- ・プログラミング力や情報活用能力の育成に特化して、全ての情報科目を網羅している。システム系とデザイン系に分けて、生徒が非常に興味を持ちやすい仕組みになっている。
- ・茨城県の中心部に位置しており、遠方から通学してくる生徒もいる。
- ・施設設備も充実しており、生徒の活動をサポートする備品類として様々なものが用意されている。
- ・企業からの外部講師派遣、専門学校等講師による高度資格取得講座など、外部人材を利用して、キャリア教育を推進している。
- ・「ITセミナー(課題研究)」で、菊の栽培のかん水装置を開発している。探究学習として、生徒が実現可能なものを考え、実践しており、長野千曲総合技術新校にも必要な要素であると感じた。

【質問】

- ・情報に特化した学校を作った場合に、高校生が卒業した後に進学先として検討する情報系専門学校の学びや経営に影響はないか。
- 事務局で確認し、回答する。

- イ DXに係る学びについて 信州大学学術研究院教育系 森下 孟 准教授

- ・教育環境設計と教育課程開発の分離を懇話会の中で明確に行い、その後、教育内容や、どのように高校生を育てていくのかという観点での議論ができるとよいのではないかと感じた。

- ・全ての概念に基づいて教育内容、教育方法、技術テクノロジーといったものを全て備えている力量を持った教員が必要であり、そのような学校教員を育てていくということが求められる。
- ・予測困難な中で、いかにコミュニケーションをとって、自分の意見をぶつけ、議論をして、問題解決を図るのか。答えのない問題課題に対してテクノロジーを活用し、未来志向型の教育ができるデザインを作っているのも面白い。
- ・高度なレベルの「ICT×専科による応用的専門性」を高校生に身につけてもらいたいと思うが、高校生は「専科と情報科における基礎知識」を高めていくということが大事だと考えている。
- ・「専科と情報科における基礎知識」の部分の専門性を新校の中で高めていくこと。これを教員や学校の環境、教育課程、教育内容として何を捉えていくのかを懇話会で議論を活性化できるとよいのではないかな。
- ・高校生は情報通信技術ICTを、どのように学びに活かしていきたいと考えているのか焦点化して、生徒たちから意見を聞いた。

【高校生の意見】

- ・1年時の基礎科目で、しっかりと土台となる学習を行ったうえで、発展した次の学習を行っている。まずは、土台となる学習を行ってから、テクノロジーに関する学びになるのではないかな。
- ・今の勉強に、テクノロジーの学びを取り入れたときに、追いついていけるか不安である。
- ・高校教育にテクノロジーを加え、専門的でレベルアップした学びとなれば、進路先の幅が広がり、進学後の役に立つと思うが、そこまで高校の教育に求める必要があるのか。まずは各校でしっかりと技術を身につけ、テクノロジーを学ぶのではなく、テクノロジーを利用して専門の学びをしたい。
- ・各科の全てを学ぶのではなく、3科の強みを生かして連携した学びをすることが必要なのではないかな。
- ・マーケティングや商品販売の知識を活かして意見交換を行い、商品に関する調査や販売等のアドバイスができるのではないかな。開発する商品のクオリティを上げるなど、連携した深い学びが期待できる。
- ・現在、2校で連携して商品開発と販売をしているが、この学習活動が豊かな学びになっている。
- ・生徒たちが求めているのは、高等教育等で学ぶような応用的専門性ではなく、今、学んでいる基礎的な内容に関して、より深い学びをしていきたいということである。そのためには構造的に3科が連携することが非常に重要であり、連携した学びにより何かを創造することができるのが新校の特徴ではないかな。
- ・教育的な専門性あるいは先進的なテクノロジーを活用することの意義を、大人の都合で考えていくのではなく、実際に生徒たちが高校の中で何を学びたいのかを最大限に捉え、ツールとして活用できる新校を作っていくことが大事なのではないかな。

【質問】（→ 森下准教授 回答）

- ・新校DXの教育の目的は、応用的な専門性ではなくて、基礎知識の深化ということか。
- 単にテクノロジーを取り入れるのではなく、本質的には教育の方法が再定義されることが目的である。
- ・学びを高めるためにテクノロジーを使っている学校は、県内外にあるか。
- 既に小・中学校では先導的に実施している学校があり、未来志向型のICTを活用して、子供たちの知識の進化あるいは構造的な学び、次世代型の学びを行っている。高校は、大学入試が従来の知識重点型となっており、そこまで行きついていない。先端技術をどのように取り入れ、構造的に子供たちに考えさせ、そのツールとしてICTをどのように活用するかで県の教育のレベルが上がっていくと考える。
- ・高校生が各科の専門的な学びに加えてテクノロジーに関する学びをすることに不安を感じている様子だが、ICT専門のコースを作り、ICTを作る人材をしっかりと育成していくことが必要ではないかな。
- 高校生は高度なテクノロジーの学びを取り入れることにより、基礎的な学びが不十分になることに不安を感じている。懇話会で、ビジョンを一致させられるようにしてもらいたい。
- ・各科の学びの土台をしっかりと踏まえ、3科連携をしながら、ICTをどのように使って連携していくのか、そこからどのような学びが出てくるのかが新校では大事なのではないかな。ICT専門のコースができれば、人材も育っていく。地域の企業と連携して、より高度な人材育成ができるのではないかな。
- 教育方法の部分でICTを積極的に活用し、教育内容として、土台となる各科の専門性を高め、深めていく形ができると、非常に有益な学校像ができるのではないかな。

【意見】

- ・県教育委員会として、再編が進む新校に、DXハイスクールへの参加を勧めてはどうか。
- ・子供たちが自分の学科の学びをベースに、学びたいことを選択でき、DXを活用しながら発展させるような高校を作っていただきたい。

（４）学びのイメージ・育てたい生徒像・目指す学校像 事務局原案【事務局より説明 意見・質問なし】

- ・前回の懇話会の意見を踏まえ、事務局会で検討し、学びのイメージの一つを「農業×商業×家庭科 深める・つながる・ひろがる学びで未来をデザイン！」とした。
- ・その他の学びのイメージや育てたい生徒像、目指す学校像については変更なし。
- ・今後、再編実施基本計画の策定を進めるにあたり、懇話会を通してブラッシュアップしていきたい。

（５）校地検討の進め方について【事務局より説明 意見・質問なし】

- ・校地検討部会構成員を提案し、承認。
- ・第1回校地検討会議開催日については構成員の日程を調整し、決定する。

◎座長まとめ

- ・本日の懇話会で、多くの生徒が希望するような魅力ある長野千曲総合技術新校ができるように感じた。
- ・今後の懇話会で、議論を深めて、一層この地域にふさわしい新しい魅力ある学校となるように協力をお願いしたい。

長野千曲総合技術新校の設置学科について

（１）現状

- ①近隣校の須坂創成高校、長野工業高校、上田千曲高校では工業科の学習内容が充実しており、総合学科の中野立志館高校でも工業系学習が可能。
- ②旧第４通学区から他通学区への流出は課題だが、工業科を学べる学校は通学可能範囲に十分存在している。

（２）工業科設置の検討結果

- ①北信・東信地区全体の工業教育を考慮すると、現状の配置でよいのではないか。

（３）DXに係る学びの重要性

- ①DXに係る学びは特定の生徒ではなく、全生徒が身につけるべきスキル。
- ②ICTを教育方法に積極的に活用し、専門科目の学びを深めることで有益な学校像を構築。
- ③農業科・商業科・家庭科の生徒がICTを活用し、専門性とテクノロジーを融合させる学びが必要。

（４）DXを活用した学習内容例

- ①ICTツール活用：スケジュール管理、クラウドサービス、※¹BYODの推進。
- ②データベース活用：統計分析、顧客情報管理、マーケティング、商品管理、スマート農業。
- ③地域と連携したDX活用：※²デュアルシステム、企業等の外部講師による授業と単位認定。
→ データベースを活用した顧客ニーズの分析+※³アパレルCADでデザインして商品化。

（５）目指す学びの方向性

- ①「※⁴共学共創コンソーシアム」を構築し、学校と地域が共に学び、地域を創る。
- ②専門性を高め、他科との融合した学びを通して感性を磨き、自らの可能性を広げていく学校を構想。
- ③地域、産業界と連携し、柔軟な発想で新しい価値を創造し、挑戦を通じて成長できる生徒を育成。

（６）設置学科

- ①設置学科は 農業科・商業科・家庭科の３科としたい。
- ②DX教育を全生徒に展開し、地域と連携した学びを推進する。

○用語の説明

※ 1 BYOD (Bring Your Own Device)

企業や教育機関などの組織において、従業員や学生が自分の所有するスマートフォン、タブレット、ノート PC などの端末を業務や学習に利用すること。

※ 2 デュアルシステム

学校での座学と企業での実習を組み合わせた仕組み。学校で理論を学びながら、企業で実践的なスキルを習得することができる。実務に直結したスキルの定着や学校と企業の連携により、即戦力人材を育成することが可能。

※ 3 アパレル CAD

アパレル（衣料）業界で使用されるコンピュータ支援設計（CAD: Computer-Aided Design）システム。衣服のパターン（型紙）やデザインをデジタルで作成・編集・管理することが可能。

※ 4 共学共創コンソーシアム

教育現場と地域・企業・大学などが連携し、学び（共学）と価値創造（共創）を一体的に進める仕組みやネットワークを指し、地域課題や社会課題の解決、人材育成、教育改革の推進を主な目的とする。

未来を創る学びのカタチ：長野千曲総合技術新校のビジョン

育てたい生徒像



自分の「問い」を立て、
主体的に学ぶ探究者

自らの興味・関心を起点に課題解決に
取り組み、変化の激しい社会を生き抜
く力を育みます。

深い専門知識を持つ、
地域産業の担い手



農業科・商業科・工業科・ライフデザイン科で
社会に通用する実践的な技術を身につけます。

地域と共創し、新たな価値を
生み出すイノベーター



地域に誇りを持ち、持続可能な社会を創る
一員として未来の発展に貢献します。

学校の特徴

学科の壁を越える、
分野横断的な学び



他学科の科目も選択でき、専門分野を養
融合させて多角的な視点と発想力を養
います。

地域社会全体が
キャンバス



企業や大学との連携、インターンシップ等を通じ、
社会の最前線で実践的に学びます。

生徒が学びをデザインする
学習環境



一斉学習から脱却し、デジタル技術を活用した
個別最適な学びと協働的な学びを推進します。

○各校 工業科各学科の主な学習内容

旧通学区	学校名	学科名	主な学習内容
2	須坂創成	創造工学	精密機械コース…工作機械を使って精密に加工部品を組み立てて、精度の高い作品を制作する。
			メカトロニクスコース…工作機械を使って加工し、組み立てて、思い通りにものが動くように制御する。
		機械工学	「ものづくり」の基礎的な知識や技術を学び、幅広い分野で活躍できる技術者の養成を目指す。
3	長野工業	電気電子工学	電気の基礎、電気回路（弱電）、発電機（強電）、コンピュータや論理回路（情報）などの学習をする。
		物質化学	化学は、ものづくりの基礎・基本であり、地球の資源を利用・加工して我々の生活に役立てることを研究・開発する。
		情報工学	コンピュータの基礎から始め、プログラミング、ネットワーク、AIなど、コンピュータを活用するための知識や技術を学ぶ。
		土木工学	土木技術者としての基礎・基本を学び、多様な技術者への土台となる専門性を育む。
		建築学	建築士・施工管理技士を目指して、実践的な技術や知識を学ぶ。
5	上田千曲	メカニカル工学	機械を設計・製作・制御する力を身に付け、機械の加工技術と制御を学ぶ。
		電気	電気の発生から活用、基本知識から応用技術まで電気を思い通りに扱うことで、世の中の役にたつことを目指す。
		建築	「理想の家」を実現する力を身につける。
6	佐久平総合技術	機械システム科	機械加工や機械の仕組み、機械の制御についての基礎的な知識と技術を身につけた技術者をを目指す。
		電機情報科	電気・情報技術の基礎的知識と技術を身につけ、電気工事等の電力関係、マイコン制御等のP C 関係の実践力の習得を目指す。

【参考】中野立志館高校 工業関連科目の選択状況

教科	科目	選択人数	教科	科目	選択人数	教科	科目	選択人数
工業 [機械] 履修者数 2年 19名 3年 10名	課題研究・ものづくり	9	工業 [電気] 履修者数 2年 15名 3年 6名	電気電子工学実習Ⅰ	15	工業 履修者数 [建築] 2年 4名 3年 10名 [土木] 2年 6名 3年 4名	建設実習Ⅰ	10
	機械実習Ⅰ	19		電気電子工学実習Ⅱ	6		建設実習Ⅱ	14
	機械実習Ⅱ	10		情報工学実習	4		建築製図	10
	機械実習Ⅲ	6		電気製図	4		土木製図	4
	機械製図基礎	19		電気回路	15		土木CAD	4
	機械製図応用	10		電気機器	6		建築構造	4
	機械工作	25		電力技術	6		建築計画	10
	機械設計Ⅰ	19		電子技術	6		建築構造設計	10
	機械設計Ⅱ	10					建築施工	4
	原動機	13					建築法規	10

○工業科の主な設置学科

機械系	機械工学科、自動車科など、機械に関する知識や技術を習得する。
電気・電子系	電気科、電子科など、電気や電子回路に関する知識や技術を習得する。
情報系	情報技術科、情報工学科など、プログラミングや情報システムに関する知識や技術を習得する。
建築・土木系	建築科、土木科など、建築や土木に関する知識や技術を習得する。
化学系	化学工業科、材料技術科など、化学に関する知識や技術を習得する。
その他	インテリア科、デザイン科など、それぞれの専門分野に関する知識や技術を習得する。